

●技術情報

Q&A

[6] 作物別施用法（豆類）

**Q6-3-2 大豆栽培において、最近新しい技術として、石灰窒素を利用した不耕起無培土密播栽培で行う省力方法があると聞きましたが、教えてください。**

**A6-3-2** この栽培方法は鳥取県農業試験場が、水稻の不耕起播種機を大豆の不耕起栽培に利用し、播種条間を水稻と同様の30cmとしたm<sup>2</sup>当たり個体数20～30本の狭条密播(狭畦密播)を基本とした「大豆不耕起無培土密播栽培技術」として体系化しました。図6-3-1に栽培体系図を示します。

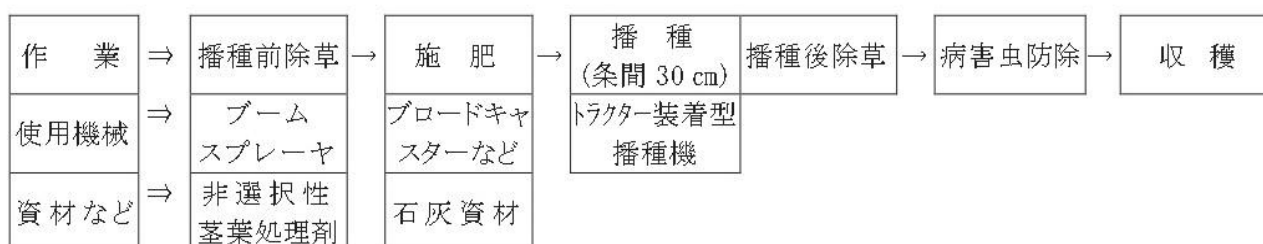


図 6-3-1 大豆不耕起無培土密播栽培体系図

この石灰窒素を使用した「大豆不耕起無培土密播栽培」の利点として、

- ①耕起を省くことで圃場の地力が維持され、雨の多い播種時期に大型機械で作業の出来る日数が確保しやすい。
- ②大規模経営で水田転作するうえで、省力化による規模拡大がしやすい。
- ③石灰窒素の施用による早期節間伸長抑制効果は徒長による早期倒伏の防止効果がある。

これらの結果、鳥取県農業試験場の試験では無処理区に比べ着莢数が増えて1～2割増収しました。

表 6-3-2 石灰窒素の基肥施用が収量と品質に及ぼす影響

(2001年～2002年 鳥取県農業試験場)

場所	年次	試験区名	収量 (kg/10a)	同左比 率(%)	百粒重 (g)	等級 (1-9)
場内	2001	石灰窒素(50kg/10a)	408	116	31.1	3.6
		石灰窒素(100kg/10a)	398	113	31.6	4.1
		無処理	351	100	31.0	4.5
	2002	石灰窒素(50kg/10a)	407	156	30.4	7.0
		石灰窒素(100kg/10a)	376	144	30.6	7.3
		無処理	261	100	33.0	6.1
鳥取	2002	石灰窒素(50kg/10a)	412	112	31.2	7.8
		無処理	366	100	30.9	7.9
羽合	2002	石灰窒素(50kg/10a)	341	111	33.5	7.0

\* 品種：タマホマレ